

の主張



堀井 玲士哉さん(崎平区)

すべての人への感謝を胸に いつかこの手で家を建てる

私は、これまでの20年間、さまざまな経験をしてきました。ここまでこれたのも家族や友人、先生方などの支えがあったからだと思っています。

その中でも、家族の存在はとても大きいものでした。小学校、中学校、高校、そして現在に至るまで、長い間、家族の支援の元で生活しています。生活できたり前ではなく、いつも家族のおかげで生活できていることに感謝しています。特に母は、昔から出来の良くなかった私をここまで育ててくれました。昔から鈍感で何事にも無関心だった私は、よく母に怒られていたのを覚えています。「怒っても本人には響かない」、そんな私の将来に母は不安や心配だらけだったと思います。今思えば本当に申し訳ない気持ちでいっぱいです。私をここまで育ててくれた母には、いま一度、心を込めてありがとうと言いたいです。

小学生の時は空手道をしており、中学・高校では、柔道部に所属していました。長く格闘技をやってきて、楽しいことだけでなく、つらいことや悔しい思いもしてきました。それでも、その多くの経験は私自身を成長させてくれました。ご指導いただいた先生方には本当に感謝しています。

これまで多くの人に迷惑や苦勞をかけてきた私は、何か人のためになる仕事がしたいと思い、高校3年生の時に「大工」という職業になるための進路を選びました。そのきっかけは、小学生の時に自分の家を新築するのを見たときのことです。何も無いところから家が建つすごさに感動し、建築の仕組みや伝統の技術を学びたい、そして、人を、家族を笑顔にできる職業は、これしかないと思うよう

になりました。

現在、私は、東海工業専門学校大工技術科に在学しており、大工および建設業全般の技術や知識を学んでいます。この学校に入学して2年間、仲間たちと大工のことを学んできましたが、その中で一番大事だと感じたことは「人からの信用」でした。そう思うようになったのは「棟梁」がよくおっしゃっていた「お客さんは1千万、2千万という大金を出して家を買う。そんな仕事を請け負えるようになるために必要なのは、信用だよ」という言葉を聞いてからです。「棟梁」は若い頃から大工の仕事に進み、多くの仕事をやってきた人です。そんな方の言う言葉はとても重みと説得力がありました。私はまだ学生の身ですが、就職すれば信用ということがどれだけ重要になるのかわかると思います。まずは、残りの学校生活の中で、大工としての技術をできるだけ向上させられるように、努力していきたいと思っています。

学校が県外であるため、母や祖父母や生活がある中でも、家族はいつも私たちのことを心配してくれており、成長を願ってくれています。そんな家族のためにも、私たちは自ら選んだ道を全うしていきます。

この生まれ育った川根本町は、帰ってこくるたびに本当に故郷だと感じます。私は、いつかこの緑豊かな川根本町の資源を使い、自分の手で家を建てたいと思います。そして、家族や私がお世話になったすべての人たちへの感謝を胸に、いつか必ず恩返しすることを誓いまして、新成人代表の言葉とさせていただきます。

アメリカでの経験を糧に
進むべき道を決めたい

益井 未来さん(青部区)



式典では、現地での活動写真とともにビデオメッセージが上映されました。

昨年3月から今年10月まで、アメリカでの海外農業研修に参加しています。今、私は、アメリカ西側のシアトルからフェリーで渡った島の農場で働いています。人口2万人ほど、森林が多く自然豊かで野生動物も頻繁に出没します。島民の人柄もおおらかで、自分が19年間過ごした川根本町によく似ています。

私が働いている農場は、家族経営の小さな苗圃です。毎日英語で「コミュニケーションをとり、農園主ともとても近い関係を築いています。しかし、農場で働き始めてからは、自分の未熟さ、語学不足など、悩みや悔しさ、焦りを感じ、涙することもありました。また日本人が近くにいることに孤独を感じることもありました。しかし、新しい体験もでき、今は充実した日々を送っています。夏は、同じ農場で働くタイ人と一緒に住みながら、お互いの国のことや価値観について語り合ったりしました。他にも日本ではあまりなじみのないさまざまな人たちと交流をします。文化の違いに驚くこともありませんが、とてもよい人たちです。日本にいたら出会えなかった人たちと交流ができただけでも、この研修は価値あるものになっていると思います。

この研修に参加を決意したのは、高校3年の卒業間近でした。進路に悩む中、就職でも進学でもない道を選択できることを教えてくれたのは、両親でした。40年前、父も同じ農業研修でアメリカに渡り、その経験を幼い頃から聞いていた私は、異国の地に少なからずあこがれを持っていました。そのあこがれや、日本では見ることのできないもの、今の年齢では経験できないことを体験しようと決意し、研修に応募しました。私の家は、小

規模な茶農家です。渡米する前、私は、いくつかのイベントで販売の手伝いをしました。そこで顧客や他の茶農家と交流することで、研修への参加にあたっての心構えや茶に対しての見方が変わっていき、いかに自分の見ていた世界が狭かったのか、思い知らされました。

アメリカでは、日本国内においては違法とされるのが、州によっては合法となっていることがあります。シヨックを受け違和感も感じますが、合法で自由であるということは、その分常に自分に責任がつかまとうということでもあります。これは新成人である私たちが、社会人としての自分の行動に責任を持つことと同じです。自分の行動・発言が、他の国の人にとっては「それが日本人だ」と捉えられることも少なからずあります。軽率な行動が、他の日本人のイメージダウンになりかねないと思うと、自分の行動に身が引き締まります。

農場実習後にカリフォルニア州立大学で各専門分野や経営学を学ぶため、今後はさらに語学力を磨こうと思います。帰国までの残された時間をいかに質の高いものにするかが、今の自分の課題です。そして、すべての研修を終えた時には、このアメリカでの体験を通して自分の方向性を見つけたかと思っています。

日本を離れたことで、家族や友人の大切さを改めて感じ、自分の生まれ育った環境を振り返ることができました。式典に出席することは叶いませんでしたが、このような形で思いを述べさせていただけただけに感謝し、また出席した新成人の皆さんの晴れやかな表情を思い浮かべつつ、新成人代表の言葉とさせていただきます。